

環境団体などが東京ガスに要望 原発や石炭火力ではなく、再生可能エネルギーへ

報道各位

2016年5月12日、eシフト（脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会）は、東京ガス株式会社の環境部を訪問し、環境政策について意見交換し、持続可能な社会にむけて、省エネルギーと再生可能エネルギーを推進してほしい旨を訴えました。

電力小売全面自由化により、東京ガスも2016年4月から、低圧小売を開始しています。現在の電源構成は天然ガス火力100%ですが、千葉県袖ヶ浦市に200万kW（100万kW×2基）の石炭火力発電の建設計画があります。eシフトは、石炭火力発電所が

- 1) 大気汚染を引き起こし、健康影響リスクを増大する
- 2) 温室効果ガスの排出が甚大であり、気候変動対策と逆行する
- 3) 石炭火力新增設は原発再稼働推進につながる恐れがある

という理由から、袖ヶ浦の石炭火力発電新設計画に対して、中止・撤回を求め、省エネルギー・コージェネレーション・再生可能エネルギーを中心に持続可能な社会への転換をリードしてほしいと訴えました。

公害地球環境問題懇談会の清水きよしからは、東京都のぜんそく患者が9万人にもものぼっていることにふれ、そこに石炭火力が加わることで、さらに患者が増えることへの懸念が伝えられました。気候ネットワークの桃井貴子からは、気候変動のリスクに加え、袖ヶ浦市の夏の光化学スモッグが東京よりもすでに多く、大規模な石炭火力発電計画に市民の間からも懸念の声があがりはじめていることが報告されました。

マンション管理組合にも所属する鈴木国夫からは、石炭火力発電は一度建設すれば40年以上使うことになるが、その間に状況が変わって不良債権となるリスクがあることを指摘しました。

eシフト/FoE Japanの吉田明子からは、電力業界の「自主目標」達成のために原発の電気を使うことに対して、原発問題や環境問題に関心を持つ多くの市民が懸念していると伝えました。

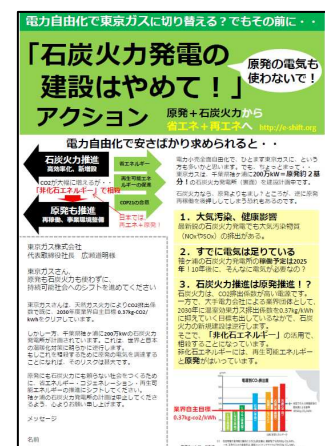
袖ヶ浦の石炭火力発電所建設はまだ計画中で、環境影響評価書が出された段階です。eシフトでは今後、参加団体や市民に対して、「石炭火力発電の建設はやめて」アクションを呼びかけます。石炭火力や原発の電気は使わずに、再生可能エネルギーへの転換を進めていただけるよう、多くの市民からはがきや電話で東京ガスに意見を届けます。引き続きご注目ください。

eシフト（脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会）

〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9 (FoE Japan 内)

Tel: 03-6909-5983 Fax: 03-6909-5986 e-mail: info@e-shift.org

URL: http://e-shift.org





2016年5月12日

東京ガス株式会社
代表取締役社長 広瀬 道明 様

脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会

拝啓 初夏の日差しが眩しい季節となりましたが、貴社におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

私たち、eシフト（脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会）は、2011年3月11日の東日本大震災とそれに伴い発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故を受けて発足したネットワーク組織です。eシフトでは、市民の立場から日本のエネルギー政策を見直し、福島での悲惨な事故を教訓として脱原発の実現を求め、省エネルギー・再生可能エネルギーを中心とした新しいエネルギーシステムへと転換する政策導入を目指しております。現在、国内で300人を超える環境団体、市民団体、個人が情報を共有しながら活動を展開しております。

さて、この4月から電力小売全面自由化がスタートし、消費者が電気を選べる時代になりました。旧東京電力管内に在住する人にとって、まずは脱原発を実践するために東京電力から別の電力会社に変更している、あるいは今後契約を切り替えることができる待ち望んだ機会であり、実際にそうしたいと考えている人が多くいます。そして、その切り替え先として有力な新電力の一つとして名前があがるのが貴社東京ガスです。その理由には、大手エネルギー企業としての安心感に加え、今すぐ再生可能エネルギー100%社会への移行が難しくても、そこに至るプロセスでは、化石燃料の中でもCO₂排出が少ない天然ガス火力を100%使い、「環境へのダメージが少ない」というイメージがあることも選択の理由にあげられます。

しかし現在、御社が九州電力や出光興産とともに共同出資する千葉袖ヶ浦エナジーでは、千葉県袖ヶ浦市に200万kW級の石炭火力発電所の建設を計画しており、昨年の環境アセスメントの計画段階配慮書に対して環境大臣が「是認しがたい」との意見を公表したにもかかわらず、環境アセスメントの方法書の手続きを進めておられます。石炭火力発電所のCO₂排出は、天然ガス火力の約2倍であり、人類が直面する喫緊の重要課題である気候変動を加速化させます。また、大気汚染物質の排出による健康影響も懸念されます。

さらに、貴社も参加する「電力事業低炭素社会協議会」では、その目標として「2030年度に排出係数0.37kg-CO₂/kWh程度」としていますが、石炭火力発電所は約0.8kg-CO₂/kWhの排出係数があるため、目標達成のためには「非化石電源」である原子力の電気を調達する方向になることを大変懸念しています。福島第一原発事故の教訓からも、温暖化対策としても原子力を使うべきではありません。またそのリスク、コストも甚大です。

貴社にはぜひ、原発にも石炭火力にも頼らない社会をつくるために、省エネルギー・コージェネレーション・再生可能エネルギーの推進にシフトしてくださることを期待しています。

石炭火力発電所が、健康影響、気候変動問題、さらに原発依存構造を推進する懸念があることから、袖ヶ浦での石炭建設計画の見直しを求める次第です。

ぜひ一度、本件について、広瀬社長と情報交換の機会もいただけたら大変ありがたく存じます。何卒ご検討のほどよろしく願いいたします。

敬具

e シフト参加団体 (2016年5月10日現在)

国際環境 NGO FoE Japan、環境エネルギー政策研究所 (ISEP)、原子力資料情報室(CNIC)、福島老朽原発を考える会 (フクロウの会)、大地を守る会、NPO 法人日本針路研究所、日本環境法律家連盟 (JELF)、「環境・持続社会」研究センター (JACSES)、インドネシア民主化支援ネットワーク、環境市民、特定非営利活動法人 APLA、原発廃炉で未来をひらこう会、気候ネットワーク、高木仁三郎市民科学基金、原水爆禁止日本国民会議 (原水禁)、水源開発問題全国連絡会 (水源連)、グリーン・アクション、自然エネルギー推進市民フォーラム、市民科学研究室、グリーンピース・ジャパン、ノーニュークス・アジアフォーラム・ジャパン、フリーター全労働組合、ピープルズプラン研究所、ふえみん婦人民主クラブ、No Nukes More Hearts、A SEED JAPAN、ナマケモノ倶楽部、ピースボート、WWF ジャパン (公益財団法人 世界自然保護基金ジャパン)、GAIA みみをすます書店、東京・生活者ネットワーク、エコロ・ジャパン・インターナショナル、メコン・ウォッチ、R 水素ネットワーク、東京平和映画祭、環境文明 21、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議 (CASA)、ワーカーズコープ エコテック、日本ソーラーエネルギー教育協会、THE ATOMIC CAFÉ、持続可能な地域交通を考える会 (SLTc)、環境まちづくり NPO エコメッセ、福島原発事故緊急会議、川崎フューチャー・ネットワーク、地球の子ども新聞、東アジア環境情報発信所、Shut 泊、足元から地球温暖化を考える市民ネット えどがわ、足元から地球温暖化を考える市民ネット たてばやし、東日本大震災被災者支援・千葉西部ネットワーク、アジア太平洋資料センター (PARC)、NNAA(No Nukes Asia Actions) Japan、さよなら原発・神奈川、プルトニウムフリーコミュニケーション神奈川、エコフェアネットワーク、350.org、公害地球環境問題懇談会 (JNEP)、大磯エネシフト

e シフト (脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会)

〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9 (FoE Japan 内)

Tel: 03-6909-5983 Fax: 03-6909-5986

e-mail: info@e-shift.org URL: <http://e-shift.org>